学生目線 安田を発信

冊子を作った「安田の食応援隊」の（左から）若下さん、岡本さん、武藤さん（南国市の高知大学物部キャンパスで）

高知大農学部（南国市）の女子学生たちが、安田町の住民との交流を通じ、町の魅力をまとめた冊子「がむしゃらな自分に出会う大学生活」を完成させた。ジネンジョやユズといった特産品の栽培に携わる農家ら地元住民を、学生の視点から紹介した内容で、制作した農学部3年の岡本晴佳さん(20)は「地域で活動してみたいと考えている学生に読んでもらいたい」と話している。

（吉田清均）

取材や体験「活動日誌」

高知大農学部女子 冊子制作

制作したのは、同大学の学生団体「安田（あんだ）の食応援隊」のメンバーの岡本さん、若下優帆さん(20)、武藤美樹さん(20)。岡本さんと若下さんは、大学の課外活動で安田町を訪れたのを機に地域の人々の温かさに触れ、「安田町の魅力を自分たちで発信したい」と、昨年5月から「食」をテーマに冊子制作を企画。町の学生地域活動支援事業費補助金を得て、町内で取材を開始。武藤さんも後に加わった。

冊子では、ジネンジョ販売の手伝いなど、応援隊の活動を紹介。その中で、愛情を持ち農業を続ける人たちの姿勢に魅力を感じ、農家や酪農家ら5人と、郷土料理を販売する施設など2か所を掲載した。ユズの収穫の風景を見て「ヘルメットにゴツい手袋と長靴という姿に最初は驚いたのですが、ユズのトゲを見て納得」と感じたり、地域産品販売所の見学で「色とりどりの田舎寿司（ずし）は、もはや芸術作品」と思ったりしたことなど、自分たちが関わった体験を「活動日誌」として率直な言葉で紹介した。

武藤さんは週4日の部活動をしながら、地域活動も続ける。「大学の授業だけでは物足りなさを感じていた。地域活動を始めて、以前より忙しくなったけれど、生き生きしている」と手応えを感じている。

4月には学内で、冊子を使い団体のPRをしたところ、興味を持った学生が詳しい話を聞きに訪れた。若下さんは「これを機に安田町を好きになってくれたらいいな」と期待する。

「安田町に行くようになって、人と関わることが楽しくなった」と語る岡本さんは「冊子を見た同世代の人たちが『自分も好きなことを始めてみよう』と思ってもらうきっかけになれば」と呼びかけている。

B5判8ページ。500部を作り、活動紹介の資料として学生に配るほか、高知大学朝倉キャンパス（高知市）や安田町役場、集落活動センターなかやま（安田町）に置いている。

問い合わせは高知大学コラボレーション・サポート・パーク（088・844・8932）へ。